

『江南市学校給食基本計画（案）』に関する

パブリックコメントの結果等について

- ◆ 意見の募集期間 平成30年12月25日（火）から
 平成31年1月24日（木）まで

- ◆ 意見を提出された方 5名

- ◆ 意見の件数 10件

- ◆ 意見の概要、市の考え方をまとめたもの 次項以降（No. 1～No. 4）
（※意見の概要につきましては、取りまとめ及び要約をしています。）

意見の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センターを1つに統合した場合、配送時間の早い学校では給食が冷めてしまったり、長時間保管したりする必要が出てくると思います。また、学校行事などで給食の時間を変更する場合、配送時間の都合をつけるのが難しくなることが考えられます。本来、給食の調理は自校方式で行うもので、児童生徒と顔が見える環境にいる調理員さんが作った給食を食べることにより、食育にもいい影響を与えたいと思います。自校方式にすることが難しいのであれば、せめて今のまま2つの給食センターからの配食を望みます。 ・現在の給食センターの老朽化に伴い、新しく整備するならば、これを機会に自校方式に戻されてはいかがでしょうか。配送回収の時間に合わせることなく、ゆっくり楽しく食べられる理想的な給食時間になるのではないのでしょうか。アレルギー食を考える上でも、一人一人に合った配慮、連携がとり易いと思います。「江南市の学校給食は自校方式で、できたてを提供」と自慢できるようになることを望みます。 ・給食センターが1つにまとめられ、大型給食センターになるかもしれないと聞いて、不安を感じました。また、少しでも配送先に近い方がいいのなら、今のまま、2箇所調理するか、昔のように自校で調理した方がいいと思いました。給食センターが多ければ、災害の時に、大人数のたき出しなどもできていいのではないかと考えています。ぜひ、ご検討をお願いします。
市の考え方	<p>本計画の第2章で定めました基本方針の実現という観点から、各提供方式を総合的に判断し、「共同調理場方式（センター方式）」を採用することとしました。</p> <p>また、現在の2センターを1センターに統合するという案が総合評価第1位となりましたが、建設候補地の状況に応じて柔軟に対応することとしています。</p> <p>いただきましたご意見については、今後、施設整備を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	<ul style="list-style-type: none">・食物アレルギーについて、除去食対応されていて、その方針は変わらないようですが、小麦アレルギーのある子には、親の負担が大きい献立だと感じています。名古屋市で通っていた保育園では代替食を提供してもらえ、とても助かっていました。代替食が難しいことは理解できるので、7大アレルゲンを含む献立の割合を今より減らしてもらいたいです。そうすることで、替わりのものを持参する回数が少なくなれば、働く親としては有難いです。・食物アレルギー対応として、専門職員を十分な人数配置して欲しいと思います。また、除去食ではなく、代替食が少しでも作られるといいと思います。そうすることで、保護者の負担軽減にもなると考えます。
市の考え方	<p>本計画においては、国の指針にあるとおり、安全性が担保できない場合は除去食の対応を選択するという考え方に則り、除去食の提供を中心とした対応を原則としています。なお、代替食につきましては、単品目などについて、その提供方法などを今後研究していきます。</p> <p>献立の作成につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	保育園の給食を給食センターから配食せず、自園で作ることについては評価します。0歳児から保育していると、離乳食から食物アレルギー対応、おやつの調理など、学校給食以上の配慮が必要です。やはり、保育士の管理が重要となってくるので、自園で作ることができれば、関係者間の連絡もしやすく、対応がしやすいと思います。
市の考え方	保育園においては、発達段階に配慮した離乳食の提供など、きめ細かな対応が必要であることから、保育園の給食調理は自園で行うものとし、本計画では、学校給食施設からの保育園への配食は考慮しないものとししました。

意見の概要	<ul style="list-style-type: none">・学校給食の業務は 365 日分の 200 日しか実働（稼働）日がないため、かつて文部省（現在の文部科学省）も民間委託は成立困難であろうとして、パート化の推進を指導していました。給食の質は真の意義（役割）を理解して実施するか否かで天地の差が出ます。現在勤務している有能な人材の活用と今後に向け真にポリシーのある企業の選定を期待しています。なお、学校給食は「人の将来を方向づける力を持った教材」だと思っていますので、今後に期待しています。・他の市町が民間委託した際、調理員さんの仕事が重労働であったため、短期間で退職する方が多くいました。民間委託は、安い賃金で重労働となることが予想され、短期間雇用になりやすいです。そうなると安全性の確保に影響があると思います。・経費削減で民間委託ありきではなく、未来を担う子どもたちにはお金を捻出していきたいです。・「食」に対する関心や認識が高まってきている中、民間委託をどのように行うかが江南市の課題だと思います。給食の実施日は年間で 200 日もありません。受託業者にとっては営利性の低い事業であると考えられますが、学校給食の重要性を理解し、質の高い給食の提供を実現できる民間事業者の参画を期待します。
市の考え方	<p>文部科学省は「学校給食業務の運営の合理化について」（昭和 60 年通達）において、地域の実状等に応じた適切な方法により運営の合理化を推進することとしており、周辺自治体を始め、全国的にも学校給食業務の民間委託は拡大しています。</p> <p>このような状況の中、市としては、民間委託については、業務の合理化のみではなく食育の充実など、その効果を適切に見極めた上で、導入するか否かを判断していきます。また、導入することとなった際は、市が十分チェックできる環境を整え、安全性の確保に努めていかなければならないと考えております。</p>